

## 第15回講座

---

# ボランティアについて



2016パークレンジャー養成基礎研修

---

2016/11/13

NPO法人日本パークレンジャー協会

# 1. ボランティアの意味

- Volunteerとは：

志願兵

義勇兵

篤志家

自発的に働き・活動する人

のことで、中世の騎士団や十字軍などの宗教的な団体の活動に起源する

- 語源はラテン語の 自由意志 「voluntas」

「種をまかないのに自生してきた植物」の意味もある



ボランティアとは自立(自律)した人

## 2. ボランティア活動の四つの原則

1) 自ら進んで行動する……

**自主性・主体性**

\* 自己責任で他者から強制されない

2) とともに支え合い学びあう……

**社会性・連帯性**

\* 自分の役割を果たし互いに支える

3) 見返りを求めない……

**無償性・無給性**

\* お金や名誉、地位は求めない

4) より良い社会を造る……

**創造性・開拓性・先駆性**

\* 自ら課題の解決策を考え実践して行く

### 3. 現代の社会

- 現代人の生活は**自分の役割が分かりにくい** -- 分業社会
- 全ての価値を**お金に換算して評価**する仕組み
- 人にとって**本当に価値あるものが何なのか**分からない  
高度な情報化・人工化、生活スタイル・価値観が多様
- 孤立(独)死、いじめ、虐待  
人と人のつながりが希薄
- 人と自然の関係では  
**自然とのふれあい方を知らない人が増えている**  
**放棄農地・手入れされない里山** や **山林が増加**

## 4. ボランティアの必要性

### 1) 既存の社会システムの限界

現代のように多様化した社会では、様々な課題に対して行政や営利企業活動など、今までの社会システムでは対応しきれない

### 2) 社会への貢献

自由な発想に基づくボランティア活動は行政・企業とともに社会を支える重要な担い手

経験を生かして社会に貢献（自分の能力の発揮）

### 3) 人間的ふれあい・自己実現・肩書きの無い自由な関係

活動の楽しさ、人とふれあう喜び、自分の能力の発揮、生き甲斐、上下関係・年齢・性別を超えた肩書きの無い自由平等な世界

### 4) ボランティアは「自分」のためにやる？

## 5. ボランティアは自分のためにやる？

- 今までの一般的意識としてのボランティアとは「困っている人を助けてあげる人」のイメージがある
- しかし人は何かをしてあげると言うよりは、自分が何かをして人が喜んでくれていると思う時に喜びを感じる

「ありがとうの言葉」、「自分が生かされ人とつながっていると感じる」

「自分をやる気にさせてくれる」、「相手からパワーをもらったと感じる」...

- **ボランティアは自分のためにする**  
ボランティアは助けるつもりが助けられている  
楽しいからやる / 自らの成長や生きがいにつながっている

ボランティアは活動の中に喜びや生き甲斐、やり甲斐を見出す人

## 6. ボランティアの責任

- ボランティアは自由意思の活動だが社会的責任がある

約束や時間を守る、自分の役割を果たす、自立(自律)する...

- ボランティアでも事故や怪我が起これば過失責任が問われることがある

事例:「子供会のハイキングで、児童が川に転落し水死」

この時ボランティアの責任者が過失致死罪に問われた

過失責任の理由:

- ① 事前に川の様子を調査する安全配慮義務を怠った
- ② こどもを遊ばせる際の監督責任を怠った

## 7. さいごに

ボランティア活動は、自己責任で自由な意思に基づいてやるものですが、一人だけでは何もできません

年齢・性別・職業の差を越えてお互いにつながり、常に学び合い・教え合ってレベルアップを図りながら、各々が役割を果たして皆が協力することが大切です

**ボランティアは焦らず気長にやる**